



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 169 April. 1. 2022

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部
〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMビル
電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924
郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」
銀行口座 三菱UFJ銀行 覚王山支店
普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



御在所山本谷
(ロープウェイから)



御在所山本谷を登る



御在所山藤内沢上部

今冬の鈴鹿は、久しぶりの大雪でした

目次

○支部60周年記念の集い報告 今津英一朗	2	○二つの視覚障がい者登山 前田隆久	13
○60山ラリー報告 山田明美	4	○東海支部蔵書からの一冊31 石田文男	13
○永年支部会員の記念品 大口瑛司	7	○随想 回想の登頂記② 杉浦吉治	15
○夏山フェスタの概要 今津英一朗	8	○委員会報告 自然保護	18
○NHK中部ネイチャーシリーズ 「白山～祈りの道」に協力して 清水克宏	9	山行/東学連	
○トピックス	10	○同好会コーナー 村中征也	21
○登山用具あれこれ③ 千葉泰丈	10	○支部友コーナー 田中進	22
○SDGsと猿投の森づくり活動2 和田豊司	12	○会務報告 今津英一朗	23
		○ルーム日誌・会員異動 今津英一朗	25
		○INFORMATION 星一男	25
		○編集後記	

『東海支部創立60周年記念の集い』報告

総務委員長 今津英一朗

東海支部の創立60周年を祝う記念の集いが、令和4年1月16日(日)、名古屋市千種区の今池ガスビルで開催された。

今回のこの集いは、当初の計画より大幅に縮小して実施された。言うまでもなく、新年よりオミクロン株をベースとする新型コロナウイルスの急速な感染拡大に配慮したものである。次第は、次の通りである。

I 部 式典

- 支部長挨拶
- 永年支部員表彰
- 60山ラリー表彰
- 記念海外登山計画発表
- (1) 第14次インド・ヒマラヤ
メラック峰登山隊(6481m)
- (2) クーンブ・ヒマラヤ
カンチュンナップ峰登山隊(6013m)

II 部 記念講演「ヒマラヤ登山今昔」

- (1) 東海支部マカルー登山隊1970
講師 尾上 昇 氏(隊員)
- (2) 現代ヒマラヤ登山の最先端
講師 平出和也 氏

内容に触れたい。支部長からは、これ迄の支部の60年の伝統を生かしながら、新時代に対応した「山岳会」としての在り方を模索したい。そして「新しい生活様式」を受け入れる活動、すなわち法令順守、安全登山の徹底(登山計画書提出等)に心掛けたい。更には、ウィズコロナの支部活動も必然的に要求される。等の挨拶があった。

「永年支部員表彰」は、石原國利さんと大口瑛司さんである。設立時からの永年表彰であり、現存者はお二人だけとなった。石原さん九州のご在住で、当初出席予定であったが、これもコロナの影響で急遽参加を取り止められている。支部長から、大口さんに感謝状と記念品が贈呈された。石原さんには、郵送させてもらった。



60山ラリーの荣誉に与かる達成者の皆さん

「60山ラリー」は、支部の60周年の60という数に因んで様々なコースを設定、60山を登ろうという企画である。「日本100高山」「一等三角点の山」「愛知県の山」など7コースで、それぞれ支部員・支部友の皆さんにその達成数を競い合ってもらった。表彰は、各コースの達成者に、表彰状と記念品が贈られた。

「記念海外登山隊」は、今年6月～7月のインド・ヒマラヤのメラック峰隊と、同じく4月～5月のクーンブ・ヒマラヤのカンチュンナップ隊の2隊が計画されている。メラック隊は、星隊長から計画の発表と隊員の紹介があった。



平出和也氏からのビデオメッセージ

カンチンナップ隊は、未踏の北壁に挑むのだが、隊員の谷、山田の両氏が在カナダの為、代わって支部長が計画の説明を行った。

Ⅱ部の記念講演「ヒマラヤ登山今昔」は、予定していた平出和也氏が、コロナ感染拡大でこれも急遽中止。今回の記念の集いの目玉であっただけに、平出氏の来名中止は、残念であった。

参加者もコロナ感染拡大で、当初の130人から90人に減ってしまった。その替わりではないが、平出氏からは、3度目のピオレドール賞受章の対象となったシスパーレ峰登攀の動画の提供と東海支部員宛のビデオメッセージが届けられて、現代ヒマラヤの厳しい登攀の一端に触れることができた。平出さんのご配慮に感謝したい。

また、尾上 昇さんのマカルー登山の講話は、当時を振り返り、登山許可取得の苦労、準備の大変さ、15トンの隊荷に500人近いポーターの動員、苦闘の登攀活動が語られた。50年前のヒマラヤ遠征がいかに大変であったかが判り、参加者からは、ヒマラヤ登山の今昔がよく理解できたと、大変好評であった。

来賓については、古野会長を初めとする各界からの出席を予定していたが、これもご遠慮願った。さらには、Ⅲ部として盛大に予定していた懇親会も中止となり、実に寂しい記念の集いとなってしまった。

この集いの他の記念事業としては、海外トレッキングと60周年記念誌（東海山岳12号）の発刊がある。海外トレッキングは、ヒマラヤ、カナダ、ヨーロッパアルプスなどが計画されたが、無期延期に。東海山岳12号については、本年の上梓が予定されている。

今回の記念の集いの実施をめぐることは、支部の常務委員会で議論が重ねられている。全面中止も検討されたが、東海支部の設立は、昭和36年(1961年)であり、すでに2回も延期した経緯があり正式には、1年半遅れである。こ



尾上 昇講師の記念講演「ヒマラヤ登山今昔」

の機を逃したら60周年の節目の意味が無くなるとの意見が多く、簡素でも強行することに至った。勿論、コロナ感染対策には万全を期すことにした。

これらの60周年記念事業とは、別になるのだが、2021年の春に、東海支部主管で「全国支部懇談会」の実施が決まっていた。支部では丁度、60周年と重なることから、冠に60周年記念を付して実施することも決め、早々に実行委員会を立ち上げた。実行委員会では、アクションや講演会の検討、さらには会場の仮予約まで済ませ、支部こぞって、鈴鹿の麓に全国から500人の会員を招くのだと大張り切りであった。これも自然消滅である。

今は、支部懇の「し」の字も出ていない。本部からも何のアプローチもない。それこそコロナが明けたら、日本山岳会上げての景気づけの事業にうってつけだと考えるが、如何であろうか。この際、本部に再度手を上げてもいいような気がする。

この2年間、ほとんどの支部の公式行事が中止もしくは延期となり、支部の氣勢が一気に削がれてしまっている。果たして元のような活気ある支部の姿に戻れるであろうか。今後の支部活動の行方に大いに懸念を抱かざるを得ない。一体この怒りをどこの、誰にぶつけたらよいのであろうか。

支部創立60周年記念事業

60山ラリー 報告

60周年記念国内事業担当 山田明美

国内事業の目玉である60山ラリーは、期間中に新型コロナ禍に見舞われましたが2021年9月30日をもって活動期間が終了しました。2020年2月、横浜港に入港したクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号から上陸した？新型コロナウイルスが瞬く間に拡散し、5度にわたって発出された緊急事態宣言による外出自粛要請は、高山に行きやすい夏山シーズンに家庭での巣ごもり状態を創出した。高山への機会を1シーズン失った為、夏山シーズンを含んだ6ヶ月間の延長で凌いだ次第です。

他の60周年記念事業が延期、中止を余儀なくされる中で、60山ラリーだけは2019年1月1日からの登頂山岳を登録可とした先行活動だったため、115名という多くの方々に楽しんで頂く事が出来ました。

60山ラリーの基本的な取り組み方針と、参加者の登頂結果（コース別ベスト10）を報告させていただきます。

60山ラリーとは、支部設立60周年（2021年）を記念して誰もが気軽に参加でき、個人山行の励みとなる事業として実施された。基本的な取り組み方針は以下の通りです。

1. 活動期間

2019年1月1日～2021年9月30日（新型コロナ禍の影響で活動が停滞した期間が発生し、6ヶ月間延長）

2. 対象山岳

7コース、677山を対象に参加希望者は登録する。登録者は7コースのうちいずれかのラリーを目標に60山にチャレンジ。複数のラリーを目標とすることも可。

- 1) 日本100高山・・・アルプスを主に100山を選び、任意の60山を登る
- 2) 一等三角点の山・・・近畿、北陸、中部山岳から113山を選定。任意の60山に登る。
- 3) 愛知県の山・・・県内の山119山を選定。任意の山60山に登る。
- 4) 岐阜県の山・・・県内の山144山を選定。任意の山60山に登る。
- 5) 三重県の山・・・県内の山120山を選定。任



7コース達成+最多登頂者の栗木さん



特別賞(最高齢登頂達成者の石田さん)



複数コース達成の皆さん

- 意の山60山に登る。
- 6) 静岡県の子山・・・県内の山108山を選定。任意の山60山に登る。
 - 7) チャレンジコース・・・上記6コースの中から任意の山60山に登る。

3. 参加登録

振込用紙で登録費3千円を振り込んで登録完了とし、登録者に詳細な山名リストと登頂報告用ハガキを送付。

4. 登頂登録

山名リストを参照に①山番号②山名③登頂日など記載し、所定のハガキかHPから報告も可能とした。これにより各自の登頂実績が判明しやすくなった。受け付けたハガキは担当委員が登頂登録する。

5. 表彰

各コース達成者には2022年支部新年会席上で表彰するとともに、記念品を授与。又、複数コース達成者等には、別途特別表彰。

6. 最終結果

2022年1月16日支部新年会の席上、参加され

た115名(男性65名 女性50名)の方に参加賞としての記念品と、コース達成された方にはコース達成数に応じて表彰状と記念品をお渡しすることが出来ました。この大変な時期に最後まで活動を支え盛り上げて下さった115名の方に感謝!!ありがとうございました。

115名中、60山達成者は64名となり全コース達成者は2名いた。詳細は下表参照。

席上、コロナ禍の下で、仲間と声かけ合い誘い合っの山行は気が引ける部分が少なからず有り、心底から楽しめる山行が少なかったという声が多々聴かれました。コロナの治療薬、予防薬が開発され脅威が完全に消えるまでは、コロナに対応した登山形態を都度模索していかざるを得ないところです。

各コース達成ベスト 10 及び 60 山以上達成者は以下の通りで

日本 100 高山コース

順位	名前	登頂数
1	栗木 洋明	7 9
2	鈴木 愛子	6 7
3	山田 明美	6 0
4	堀畑 静夫	3 7
5	大島 巖	3 6
6	酒井 大輔	3 1
	高松 信治	3 1
8	中野八千代	2 0
	平井 まり	2 0
1 0	杉村 正博	1 9
	池戸 美恵	1 9
	遠藤 忍	1 9

一等三角点コース

順位	名前	登頂数
1	栗木 洋明	8 3
2	山田 明美	7 0
3	遠藤 忍	6 3
4	石井 仁	6 1
5	酒井 大輔	6 0
6	堀畑 静夫	3 9
7	鈴木 浩	3 1
8	川崎 禎明	2 9
	川崎 明子	2 9
1 0	六郷 孝也	2 8

愛知県の山コース

順位	名前	登頂数
1	栗木 洋明	1 2 5
	天野 俣明	1 2 5
3	石田 誠	1 1 5
4	前田 隆久	1 0 8
5	山田 明美	1 0 7
6	磯部 隆	1 0 1
7	井上 寛之	1 0 0
8	水野 猛志	9 9
9	大島 巖	9 8
1 0	川瀬眞知子	9 1
	岩間 洋子	9 1

岐阜県の山コース

順位	名前	登頂数
1	栗木 洋明	8 7
2	遠藤 忍	7 4
3	大島 巖	6 9
4	酒井 大輔	6 7
5	山田 明美	6 5
6	木村 孝保	6 3
7	榊 将美	6 2
8	石井 仁	6 0
9	水野 猛志	3 6
1 0	平井 まり	3 1

三重県の山コース

順位	名前	登頂数
1	栗木 洋明	8 4
2	石井 仁	6 3
3	酒井 大輔	6 0
	山田 明美	6 0
5	石田 誠	3 2
6	椿 利枝子	2 6
7	堀畑 静夫	2 2
	川崎 明子	2 2
9	川崎 禎明	2 0
1 0	遠藤 忍	1 9

静岡県の山コース

順位	名前	登頂数
1	栗木 洋明	7 3
2	山田 明美	6 0
3	石井 仁	6 0
4	酒井 大輔	1 7
5	川崎 明子	1 6
6	川崎 禎明	1 4
7	近藤 政仁	1 3
	堀畑 静夫	1 3
9	川瀬眞知子	1 2
1 0	六郷 孝也	1 1

60山以上コース達成者（含登頂数）……64名

順位	名前	達成者	登頂数	順位	名前	達成者	登頂数
1	栗木 洋明	7コース	473	33	森本真由美	2コース	92
2	山田 明美	7 "	375	34	川島節子	"	90
3	石井 仁	6 "	282	35	山田 昌子	"	85
4	酒井 大輔	5 "	285	36	浅井 正行	"	84
5	遠藤 忍	4 "	207	37	佐原 光子	"	82
6	榊 将美	3 "	172	38	豊田 由香	"	76
7	大島 巖	3 "	214	39	鈴木 愛子	"	75
8	堀畑 静夫	2コース	172	40	飯島実千代	"	75
9	川崎 明子	"	170	41	木村 孝保	"	74
10	石田 誠	"	167	42	林 須美子	1コース	110
11	川崎 禎明	"	166	43	伊藤 稔	"	96
12	水野 猛志	"	165	44	鈴木 浩	"	95
13	川瀬真知子	"	144	45	六郷 孝也	"	92
14	磯部 隆	"	142	46	光崎 晋	"	91
15	前田 隆久	"	140	47	大口 恵子	"	91
16	平井 まり	"	136	48	近藤 政仁	"	83
17	熊谷美喜子	"	126	49	大蔵 昌美	"	83
18	天野 俣明	"	125	50	鈴木 慎吾	"	77
19	滝 清子	"	122	51	鬼頭 則俊	"	75
20	岩間 洋子	"	122	52	奥野 明美	"	73
21	岡本 昭子	"	120	53	椿 利枝子	"	69
22	井上 寛之	"	119	54	横地 達夫	"	63
23	伊与田玲子	"	110	55	高松 信治	"	63
24	橋本智恵子	"	107	56	倉橋 智司	"	62
25	櫻井恵美子	"	105	57	福井 雅子	"	61
26	谷口 直子	"	105	58	太田 重成	"	61
27	前田 芳子	"	102	59	石田 好子	"	61
28	杉村 正博	"	100	60	瀬戸口路子	"	60
29	中島 美枝	"	96	61	吉田 清	"	60
30	松尾久美子	"	94	62	武内喜代子	"	60
31	池戸 美恵	"	94	63	今徳 義宣	"	60
32	石田 伸郎	"	93	64	石田 智子	"	60

7. 会計報告

項 目	金 額	項 目	金 額
参加費(登録費)115人 支部よりの補助	345,000 14,046	事務費	5,583
		印刷費	43,792
		システム開発費	12,844
		発送費	21,002
		小 計 (A)	83,221
		賞状作成費・額縁代	9,419
		賞品代	265,306
		駐車場代(賞品搬入)	1,100
		小 計 (B)	275,825
		合 計	359,046

8. 総括（反省と課題）

国内事業委員会発足が2019年3月末であり、十分な準備も出来ないままスタートしてしまった。秋頃までは修正、要望対応に追われた。60山ラリーHP作成、処理対応に当たってはデジタルメディア委員会のご尽力で無事終えることが出来ました。以下に同じような周年行事を実施するにあたって、課題を含めた反省事項を述べて置く。

1、周年行事実施を突発で決めたわけでもなく、期間中に委員会発足となった。国内事業の実施内容、委員会発足（委員の選定・・・お願い）、各コース対象山岳の選定と冊子の発刊などHPの立ち上げなど軌道に乗せるまでは楽しめる委員会では無かった。準備万端整ってスタートを迎えられると良かったと思う。

6ヶ月以前に遡って登録可としても、対象山岳が不明な以上遡る効果は少ない。この点について今回のラリー参加者からの声も大きかった。

2、対象山岳を登録した山名冊子作成に当たって、県境上に位置する対象山岳は重複登録を避けると確認し合って進めたが、重複登録、

山名間違い（岳⇄山）、標高間違いなど多々あり、皆さんからの指摘もありがたく頂いた。デジタルメディア委員会のご尽力でスピーディに対応出来た事に大感謝!!

3、対象山岳登山中に『道迷い』事故発生した。2020年6月2日入山し、3日夜支部員を通して遭対に連絡。家族すらどの山域、どの山に行ったかも知らず検索場所特定に時間がかかった。幸い6月5日捜索中の岐阜県警のヘリに発見され大事に至る前の捜索だった。地元の山、おらが山であっても生きて帰る事を望むなら計画書、登山届は必ず提出すべき事案であった。

4、立ち上げ時の運営資金が無く全て個人で立て替え、都度支部会計へ支払いをお願いせざるを得なかった。実施が決まった時点で暫定予算を組んでいただけると進めやすい。

5、新年会でお渡し出来た記念品の調達では、前駅前アルプスのオーナー千葉泰丈会員、(株)マルテンオーナー天野俣明会員のご尽力によりラリー登山らしい記念品をお渡しすることが出来ました事をこの場を借りて報告させて頂きます。ありがとうございました。

支部 60 周年

永年支部会員の記念品

評議員 大口瑛司

1月14日に東海支部の60周年記念式典が行われました。式典では支部の永年支部会員の表彰があり、創立からの会員は石原國利さんと私の二人だけでした。

ところが石原國利さんと二人が表彰されるはずが、石原さんは福岡県在住の遠方でもあり、コロナの感染を危惧して事務方の方で欠席を促されたようでした。

したがって支部創立60周年記念の式典で永年支部会員の表彰は私一人だけで、石原さんと久しぶりにお会いできると楽しみにしておりましたのにコロナ禍では致し方なく、誠に残念で寂しい思いの表彰でした。

指定された席に座っていると周囲は知らない人ばかりで、仲間たちはみんなどこへ行ったのだろう、どうして私一人が此処にいるのだろうと不思議な感覚に囚われました。

思い起こせば創立間もないころは長者町の

水谷商店2階の和室が会場場所でした。ある時尾張徳川家のお殿様（19代徳川義親氏）がお見えになり、手土産は小さな缶に入ったキアビアでした。世界の三大珍味の一つだとは知っていましたが口にすることはなく、10人もいませんでしたが耳かき一杯ずつしか行き渡りませんでした。私にはただ塩辛いだけの印象です。

お殿様は東海支部と何の関わりもありませんが、会員の一人が仕事上の縁でお連れされた様だった。小牧山には徳川義親氏の立派な銅像があります。

また東海支部の何周年記念だか覚えていませんが、アトラクションでヨーデル（本場のコンクールで一位になった日本人女性）を聞かせていただいてその素晴らしさに感動したことがありました。さすが東海支部はやる事が違うと思ったものです。

東海支部40周年記念の折りには表彰を受け

た永年会員が壇上に7, 8人はいたと思います。その時の記念品は素晴らしいウイスキーグラスでした。グラスのボディには次の様に、個人の名前まで。

JAC — TOKAI
The 40th Anniversary
E. OHGUCHI

グラスの底には日本山岳会のマークが透かし彫りしてある素敵な一品でした。

そんなイメージあったので今回はどんな記念品だろうと浅はかにも期待しているのですが、頂いたのは多大な買い物券でした。

事務方ではわずか二人のためにと悩まれたのではないのでしょうか。申し訳ないので自らが記念になるものを探すことをしました。

20年ほど前に関西支部の方から90周年記念のJAC KANSAIのロゴマークの付いた小ぶりのショルダーバッグを頂いて、外出時にはたえず携えて大変重宝していました。それは帆布製で開閉のチャック以外何もなく、丈夫で使い勝手のいいバッグでした。シンプル・イズ・ベストです。

最近小さく感ずるようになっていましたので、記念品として誂えようと思い、頂いた人



そのショルダー

バッグです。

にメーカーを探していただきましたが代が変わり、今はオーダーを受けてないとのことでした。

やむなくネットで探して理想的ではないがデニム地に蓋には留金のあるショルダーバッグを入手し、勝手にロゴマーク（未承認）をつくり、メーカーのロゴマークの上に張り付けて記念品としました。

夏山フェスタの概要

総務委員会委員長 今津英一朗

恒例となった夏山フェスタ2022年が開催される予定です。

日時：2022年6月11日（土）、12日（日）

場所：ウイंक愛知 7階、8階

（愛知県産業労働センター）

名古屋市中村区名駅4-4-38

主催：夏山フェスタ実行委員会

※ 今年から東海支部が実行委員会
メンバーとなります。

内容：

予定ブース

- ・登山用品メーカー
- ・自治体
- ・山小屋相談コーナー
- ・登山・写真相談コーナー
- ・登山用品セミナー

など

また、充実した講演が予定されております。

講演予定（予定）

- ・吉田 類さん（酒場詩人）
- ・田中陽希さん（プロアドベンチャーリーダー）
- ・石丸謙二郎さん（俳優/山の日アンバサダー）
- ・かほさん（youtuber）

※内容は、講演者の予定などで変更になる場合があります。

※全て予約制です。

詳しくは同封のチラシをご参考にして下さい。感染対策を徹底して準備しております。

一部の方々にはお手伝いをお願いすることになると思います。

ご協力を宜しくお願いいたします。

以上

NHK 中部ネイチャーシリーズ

『白山～祈りの道をたどる旅』に協力して

技術向上委員会委員長 清水克宏

昨年5月、㈱ナカニシヤ出版から『森の国水の国 岐阜百秀山』を上梓した。その1ヶ月あまり後に、技術向上委員会のメンバーとしてご一緒している、NHK名古屋放送局の廣瀬学さんから、「毎年名古屋放送局が制作している『中部ネイチャーシリーズ』で、この夏はエッセイストの矢部華恵さんを旅人として白山美濃禅定道を取り上げようと思っているんですが、案内役をお願いできませんか。」との話をいただいた。

本に「白山信仰と信仰の道」と題し、美濃禅定道についてコラムを載せたことで声を掛けてもらったようで、メインの石川県側ならば、プロのガイドに頼めるけれど、マイナーな美濃禅定道を紹介できる候補者はなかなかいないとのこと。岐阜県の山の魅力を少しでも広く知っていただければと、及ばずながら案内役を引き受けた。

白山美濃禅定道は、郡上市白鳥町の長滝白山神社を「馬場」と言われる起点とし、桧峠を越え、登山の前線基地ともいえる白山中居神社を中心とした石徹白（いとしろ）の集落を経て霊峰白山に至る前長40km以上の長大な信仰の道。白山信仰の基本資料『白山之記』では越前・加賀馬場とともに、天長9（832）年に開かれたとされ、1200年近い歴史を持つ。登山ルートは、樹齢1800年の禅定道のシンボルともいえる石徹白大杉から、女人禁制の歴史を伝える母御石、銚子ヶ峰（1810m）、三ノ峰（2128m）、別山（2399m）、南龍ヶ馬場を経て、白山御前ヶ峰（2702m）に至る。明治初年の神仏分離などの歴史の荒波を被りつつも、他の二禅定道と違い現役の道であり続けたところが貴い。

撮影は7月末から8月にかけて行われた。撮影隊は、矢部さんを旅人役とし、チーフディレクターの廣瀬さん、カメラマン、音声係、ドローン班2名、学生アルバイトの歩荷君、それに私、さらに登山口送迎の運転手という大所帯。単に登るだけでも大変なルートを、4K対応の重い撮影機材を背負っての撮影は、体



母御石での撮影風景

力勝負。皆さん、山岳部出身やヒマラヤ経験者という、NHKが誇る山岳撮影を支えるそうそうたるメンバー。矢部さんも、モデルやエッセイストなど、多彩な才能と経歴をお持ちの方。休憩時の会話も弾み、いい雰囲気での撮影が進められた。

山岳番組の収録は、天候や時刻で風景が刻々変化し、あらかじめシナリオを作りきれない制約がある。さらに今回は、新型コロナウイルスに、8月の悪天続きと、チーフディレクターの廣瀬さんのご苦労はさぞかしと拝察。

私もなるべく撮影がスムーズに進むよう、白山信仰に関するレジュメをお渡しし、撮影好スポットの紹介に努める。霧や強風でドローンが飛ばせなかったり、下山の折には台風が迫り車両通行止めになったり目にもあったが、何とか無事撮影は終了。廣瀬さんは、さらに山頂でのご来光のシーンも入れたいと、9月にも撮影を重ねられた。

1ヶ月半を要した編集を経て、11月26日にいよいよ放送。長大なルートをたどり、御前ヶ峰の頂きで矢部さんがご来光を仰いで感動のフィナーレを迎える、まさに『奇跡の絶景ストーリー』に仕上がっていた。皆さまお疲れさまでした。（同番組は12月5日に再放送。さらにNHKBS1で12月24日、1月1日、21日に『躍動する大自然 奇跡の絶景ストーリー』として全国放送。）

カンチュンナップ登山隊壮行会

3月25日、場所は中区栄の「レストランリビエール」において、今春東海支部が派遣するカンチュンナップ登山隊の壮行会が催されました。

周知の通り、この登山隊は、支部の60周年記念事業の一環で、支部員の山田利行さん、谷 剛士さんの2名が、クーンブ・ヒマラヤのカンチュンナップ峰(6090m)の未踏の北壁からの登頂に挑戦します。予定では、4月3日に日本を発ち、4月中旬から5月初旬を登攀の予定期間に置いています。

壮行会は、初めに支部長の激励の言葉と助成金の目録が手渡されました。また、折よく本部の元理事大槻利行さんが来名、古野会長のメッセージが代読されました。

谷さん、山田さんからはそれぞれお礼の挨拶があり、その後、日頃我々にとっては馴染みの乏しいカナダの山々の紹介も行われました。ちなみに、山田さん谷さんの両名は、在カナダで、カナダの山々をホームグラウンドとして腕を磨いています。

当日は、支部員を含む関係者30余名が参加、中には、山田さんが南山大学の出身者ということで、同大の山岳部のOB連中も顔を見せ、久しぶりの再会と言うことで花が咲いていたのが印象的でした。(編集委員会)



谷 剛士さん(左) 山田利行さん(右)

登山用具あれこれ③

6本爪アイゼンかチェーンスパイクの選択

— 雪山初心者にはどちらをお勧めする? —

装備委員会委員長 千葉泰文

今シーズンの鈴鹿の山には、温暖化が進む例年には珍しいほどの積雪に恵まれました。冬になっても積雪量の少ないことが多かったのは、ある意味雪山の醍醐味を半減させるものでした。そのような雪山に今まで尻込みして、あこがれを持っていても雪に親しむ機会の少なかった人を誘うには絶好なシーズンではなかったのでしょうか。もしくはこれからの残雪のハイキングや夏山の雪渓歩きにあると良い助けになる道具が6本爪アイゼンか、最近多く見かけるのがチェーンスパイクです。これらを駆使すれば雪山ハイキングを楽しくしてくれます。ですがその時に選択すべきなのは6本爪アイゼンかチェーンスパイクなのか? そのどちらか一つあれば十分なので迷うところでもあります。この両者について比較検討してみようと思います。

チェーンスパイクが使われだしたのは比較

的最近です。それまでは低山の雪山だったら6本爪アイゼンであればよいという選択であったと思います。その6本爪アイゼンは靴に確実に、なおかついかに簡単に装着できるかがその進化の過程だったともいうことが出来ます。雪山初心者にとってマスターしなければいけないことの一つが素早く確実に装着することでした。チェーンスパイクはその関門を解決したということが出来ます。タイヤチェーンのように靴に被せるだけで済むようになりましたから。ですがその性格の違いが有る程度ありますのでその性質を比べてみようと思います。

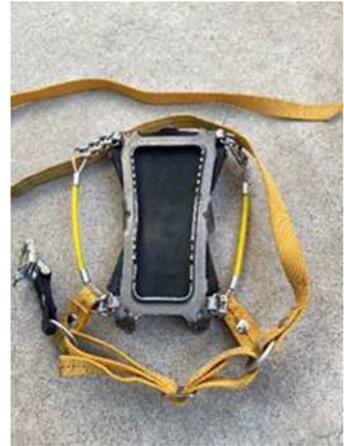
6本爪アイゼンはピッケルを必要としない軽登山靴による雪山歩行に十分不足なく性能を発揮できます。靴に対しての調整は無いか、有るとしても幅合わせ程度で済むため比較的簡単に済ませることが出来ます。最近の一部ラチェット式のベルトで装着するタイプのアイゼ



この中で一番古いタイプのバンド装着タイプ。足首を一周してリングに通しズボンのベルト式のバックルで止めます。靴に装着するのに慣れが必要です。



20年位前に出回ったタイプ。ベルトをリングに通さなくてもよいように工夫されましたが、かえってややこしいことになった。



比較的新しいタイプ。リングの代わりにワイヤーをひっかければよくなったので、手間が半減しました。

ンは靴のサイズによって選ぶときに S, M, L 等のサイズを選択する必要のあるものが有ります。重量があまり重くなく、かさばりにくいため手軽に装備できること。柔らかい新雪から踏み固められた雪、残雪そしてルートの上でも効いてくれること。などがメリットとなります。半面デメリットと感じることは、バンドで装着するタイプのアイゼンは確実に素早く装着するのにある程度の慣れが必要となります。(最近ではラチェットでより簡単に装着できる商品が現れている。) アイゼンの爪がつま先やかかとの一番後ろまで全体に行きわたってはいないため急な斜面の登りや下りには適していないこと。チェンスパイクに比べて爪が長めのため、爪の長さ慣れた歩行の仕方を、アイゼンでは当然の歩行なのですが、アイゼン装着時の正しい歩行技術を必要とすること。チェンスパイクでも同じことが言えますが、6本爪アイゼンほどでは有りません。厳冬期の柔らかい雪であればわかんやスノーシューを使用した方が良いケースが有ります。

それに対してチェンスパイクは靴に被せるだけなので簡単で素早く装着できます。6本爪アイゼンの時のように神経質になる必要が有りません。靴裏全体にスパイク又はチェーンが行き渡っているため靴全体のグリップが良

くなると感じます。歩き方が、6本爪アイゼンの時ほど意識しなければならないということが有りません。固く踏み固められている雪、凍っている場合は6本爪アイゼンより有利かと思えます。6本爪アイゼンよりさらに軽量でコンパクトに収納できるのでさらに装備しやすと言えます。値段は5,000円位から9,000円位と幅広くありちょっと高性能を意識した商品もありますが、靴底がたわんで曲がる靴にも使用することを考えているために、靴そのものの能力に左右されることが大きいと考えられますのでその辺はどうなのでしょう。そもそも12本爪アイゼンを必要とするような斜面で通用するものでは有りません。もしかしたら柔らかい雪での斜面での効きは6本爪アイゼンの方が優れているのではと感じます。チェンスパイクを購入の際は靴のサイズに合っているか確かめる必要が有ります。(上の写真参照)

最近ではチェンスパイクが多くなっている傾向にあると感じますが、どちらもメリットデメリットが有りますのでそれを理解して選択していただくのが良いと思います。

どちらも気軽に雪の山を歩けるのが魅力ですね。

SDGs と猿投の森づくりの会の活動（2）

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

4. 再生可能エネルギー（項目7／17）

木材資源を育てる。猿投の森では人工林（スギ、ヒノキ）が約50ha、雑木林が100haあり将来の木材資源活用に備えてどんどん蓄積されている。優良林として育ち建築材料として使用後やがては廃材となってチップ化され、発電燃料として活用される。

雑木林は現在エネルギー資源としては活用の予定はないが試験的に炭作りを継続している。カーボン蓄積として再生可能エネルギーの潜在能力を高めている。

5. 持続可能なまちと地域社会（項目11／17）

昭和30年代までは洪水の多発する禿山が連なる瀬戸の山々であった。現在では緑豊かな水源と保健保養の森となり地域の下水道を涵養する水と森（カーボン）の循環が生活環境を潤している。環境林の育成や自然保全をとおして名古屋近郊の住みやすい持続可能な地域の街作りに貢献する。

6. 気候変動への対策（項目13／17）

森づくりを通じてカーボンニュートラルに貢献する。植物は大気中のカーボンを固定する。森は長期間にわたりそのカーボンを留め置き、利用された木材はやがてはチップ化され燃料になったり腐敗する。雑木林は生物連鎖により大気に戻る。大気中のCO2を増やしも減らしもしない。温暖化などの気候変動対策に貢献している。

7. その他

7-①海の命を守る（項目14／17）…健全な海は森から出る栄養素や健全な水の供給が必要。生物多様性に富んだ森は健全な海をつくる。

7-②陸の命を守る（項目15／17）…樹木、獣類、草本類などの調査により現状を



地域の人と記念植樹



江戸時代の赤津と猿投山 禿山だった

認識し、生物多様性のある豊かな森づくりを実施している。

7-③目標のために協力すること（項目17／17）…年間計画で目標を設定するとともに愛知県、瀬戸市、長久手市、名古屋市、東京大学などと協調しながら推進。

以上述べたように当会の活動はSDG's 17項目のうち9項目が該当している。森づくりを楽しみながらSDG's に貢献する活動をしたい方の入会を期待する。

二つの視覚障がい者登山

ボランティア委員会委員表 前田隆久

東海支部には、二つの視覚障がい者登山がある、ブラインド登山とひまわり登山。

ブラインド登山は歴史も長く、2008年から春と秋の二回、「みちしお」（視覚障害者情報提供施設 社会福祉法人名古屋ライトハウス 情報文化センターの機関誌）で視覚障がい者の方を対象に、登山への参加を募集、登山サポートを、ボランティア委員会以外の方にもお願いして、大型バスを使用して30人規模で行う山行。昨年で24回を重ねた。

ひまわり登山は、2016年から始まった。原則、東海支部所属の視覚障がい者を対象に、委員会メンバーのみの少人数で対応できる山行で、年数回行っている。どちらも、新型コロナウイルス感染症で休眠状態だったが、ブラインド登山は昨年11月14日、2年ぶりに各務原アルプスで開催できた。詳細は支部報1月号で報告済み。

ひまわり登山は、今年2月26日、「まん延防止等重点措置」の状況下ではあったが、コロナ禍の「東海支部活動の指針」に従い、県内で日帰りを前提に、密を避けるため大型バスに半分の定員で、感染症対策に留意して行った。

今回は、支部員の視覚障がい者3名に、昨秋のブラインド登山に参加された中から2名に声をかけ、5名の視覚障がい者で行った。行き先は、岩巣山周回ルートで、往路は岩屋堂公園①から元岩巣経由で岩巣山。岩巣山で昼食後、復路は、岩巣山からダイレクトに岩屋堂公園②



岩巣山周回ルートにて

に降りる周回ルート。復路は一般ルートにはなっていないので、踏み跡はあるものの、枯葉で埋もれ枝道等も多く、迷いやすいルートではあった。山歩きが久しぶりの方もいたが、全員元気に無事終了した。

この先も新型コロナウイルス感染症は不透明で、この支部報が出る頃も予断を許さない状況が想定されるが、春のブラインド登山を5月7日に設定し大型バスを予約、「みちしお」での一般視覚障がい者に対する参加募集を開始した。また、いつも、ボランティア委員会を支えて下さっている支援者の皆様にも、支援のお願いメールを差し上げて準備を進めている。



東海支部の蔵書からの一冊③①

図書委員長 石田文男

『山岳関係図書目録』 『山岳関係図書目録
追加補訂』 和書1988～2018

著者：日本山書の会・山書総目録編集G

2020年12月に大著が出版された。山書に関心のある人には朗報と言えるだろう。『山岳関係図書目録』がそれであり、『追加補訂』加えると実にB5版611頁に及ぶ。なお、本目録は1991年9月に日本山書の会から刊行された『山岳関係図書目録（和書）1975 - 1987』の続編である。



まずは巻頭の凡例をみればこの書の全体像が一目瞭然である。書名、著者、出版社所在地名、出版社、発行年月、頁数、判サイズ(cm)など本としての知りたい情報がある。未知の本との巡り合いがある。

山書総目録編集グループは1980年秋に登山に関連する山岳図書の網羅的な目録の編纂を目的として・・・地区会員の有志により形成された。当時、数種の山書目録は存在していたものの書誌記述が不十分だったりしたことから、完全版の編纂を構想し開始している。

これは前著の『山岳関係図書目録和書1975-1987』に続くものであり、「山書研究の基礎は目録の存在にある」との強い思いから、当初の完全版構想から外れながらも2018年までの30余年分が収録された。

この続編は収録期間が30余年分と言うことから採録総数は11,695、『追加補訂』1,188で総収録冊数は11,970とすごい。全メンバーが分担してデータの採録やデータの照合・確認を行い・・・、しかしデータの採取や蔵書データベースにおいて一般図書館では山岳図書という特殊性から所蔵に限界があり・・・。などなどの紆余曲折している中、現物の照合調査において東京のメンバーの助力があり、「わが国で唯一な山岳図書館と言える日本山岳会図書室を利用できたことは幸い」だった。さらに「当初、構想していた明治以降の山書総目録編纂という壮大な目的から外れ、単なる続編としての平成年間をカバーする山書目録となってしまった。」と述べている。

「目録への掲載にあたっては収録基準と照らし合わせ、初版（および収録期間内での最初の版）の記録の下に各版を注記する形式に・・・。配列法は書名の五十音では書名を知っている場合に有意義であるが、特定の山城やテーマに関わる山書をしらしめることはできない」とあとがきにあるが、私はそうでなく、十二分に楽しめ活用できる目録だと思っている。

たとえば、高山植物22冊、花の名の付くもの96冊などがあることから未知の書名を知ったり、興味惹かれたり、入手欲だったり。地図に関するものも22冊と多い。いずれにも惹かれるが『地図をつくった男たち』『地図の読み方がわかる本：一枚の地図に詰め込ま

れた無限の情報をキャッチする』などは食指が動く。五十音順著者名索引を開くとその著者がどんな著書を出しているか。串田孫一では43点あり文献番号を辿れば書名が判り、未だ知らなかったものが分かる嬉しくなる。正しく「書名から著者を知る、著者から書名を探る」事が容易い。構成は本編「目録本体と著者名」の二部構成、追加補訂が「追加編・補訂編・総合著者名」からなっている。

因みに、〈『追加補訂』版のあとがきにかえて〉の一部を引用しておきたい。「本書は本編刊行（2020年12月21日）後、・・・Excelファイルに反映させる作業の中で判明した収録漏れを追加補充するもの。・・・採録調査が不十分であったということは目録の信頼性に関わることなので、改めて修正版を刊行すべきところ、経済的に微力なため『追加補訂』として別冊刊行」されたもの。

今や、山書に限らず本離れが言われるようになって久しい。支部には多くの蔵書が有り毎回の支部報に掲載・紹介して、利用の促進を図っているところだがやはり貸出数は少ない。「本に親しむことは自らの山への視野・糧の広がりにつながる」ことから、まずはどんな本に接し、知るか、読むべきかだろう。それにはこの『山岳関係図書目録』はうってつけと言って良い。

終わりに、本目録紹介と合わせて一読・所蔵せられることを薦めたい。

頒布価格：11,000円（分冊不可）送料実費
（一セットの場合550円）

申込方法：葉書又はメールに氏名・住所・電話番号を明記

申込先：「山書総目録」編集グループ事務局宛

葉書：611-0002宇治市木幡金草原60-6
野口方

メール：tauche48kb@gmail.com

* 本編；2020年12月発行

収録8,561点10,782冊 B5判

510頁 丸背クロス

* 追加補訂：2021年10月発行

収録996点1,188冊 B5判101頁 並製

発行所：日本山書の会・山書総目録編集
グループ事務局

回想の登頂記 ② マッターホルン

支部員 杉浦吉治

“Here’s the summit! Mr. Sugiu ra, congratulation!” “Thank yo u very much! Mr. Gunta.”

2000年8月30日午前9時9分、現地プロ・ガイドのGuntaさんと固い握手を交わす。ヨーロッパ・アルプス最難関の高峰マッターホルン(4,478m)の頂上である。あいにく、頂上直下あたりから天候が悪化して降雪となり、眺望はまったく効かない。しかし、この充実した達成感はいまだに消えることなく持続している。

*

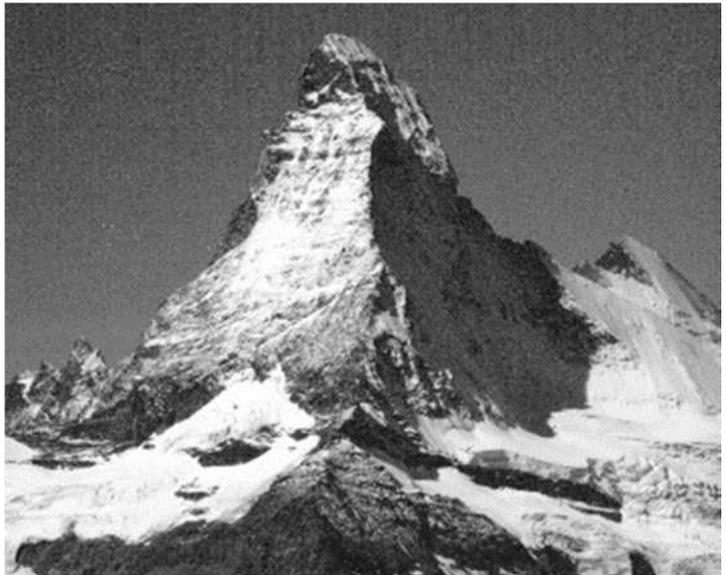
「魔の山」マッターホルン。1865年7月14日、イギリスの登山家・E. ウィンパーのパーティ7名が、初登頂を果たしながらも下山途中で1人が滑落したのをきっかけに、一行を結んだザイルが切断し4名の命が1,200m下の氷河へ吸い込まれていた。

しかし、この山の雄姿を一度でも目にした若干なりとも腕に自信のある者は、登攀の誘惑から逃れられないであろう。実は私もそのひとりであった。

マッターホルンは「魔の山」と言われるが、「世界で最も美しい山」とも「理想の山」(G. レビューファー)とも言われている。スイスとイタリアの国境に聳えるピラミッド状のこの孤峰は、標高こそスイス・アルプスの最高峰モンテ・ローザ(4,634m)には及ばないものの、ツェルマットの駅前へ一歩を踏みだして眼前に聳えるその姿を目にした者なら、またその絵はがきを手にした者でも、その美しさと雄々しさに感嘆の声をあげることであろう。

*

登頂前日 8月28日までに高所順応のための近辺の登山(4,164mのブライトホルン)を終えて、29日はいよいよマッターホルンの登頂前日の宿泊所であるヘルンリ小屋(3,260m)へ。ここまでは妻と行動を共にしてきたが、この後はいよいよひとり(ただし、ガイドと1対1でアンザ



この角度からの眺めが最も美しい(ルートは右のヘルンリ稜)

イレン)となる。

登頂当日 翌30日、早朝4時30分起床。といっても実は、前夜8時過ぎに床に就くも、緊張(むしろ恐怖心)と興奮で、眠れずにいた。外は満天の星空。しかし、午後からは崩れるとの天気予報。急いで簡単な朝食を済ませ、ガイドのGuntaさんとアンザイレンし、ヘッドランプを点灯して4時44分出発。

小屋を出てすぐ垂直の壁に取り付く。登山者は約80名。登山者にガイドが1名ずつ付く。決して早登り競争をしているのではないが、ルートが限られているので、早くトップ集団に付かないと待ち時間が長くなる。通常の登山は、スタートは調子が出るまでゆっくりと、やがて徐々に速度を上げて登るのであるが、ここは勝手が違い、始めから超特急の登攀である。そのため、寒さも吹っ飛び、呼吸はすぐ荒くなる。アノラックも手袋もガイドに脱がされる。このペースが1時間以上続く。

やがて東の空がうっすらと明るくなる。いつもの山行なら、明けゆく空に美しいシルエットを描く山々の稜線を心ゆくまで眺め撮影しながら登高を続けるのであるが、今回はまったく

違う。撮影どころか眺めてもいられない。確実に三点確保をしながら登攀に専念する。

必死に攀じって、ソルベイ小屋(4,003m)まで辿り着く。午前7時7分。ここまでの標準時間は3時間だが、私たちは2時間23分で到達する。ここで初めての小休止。ヘッドランプをヘルメットから外してザックへ納める。しかし、この小屋は岩壁に張り付いて建てられた緊急避難用のものであるため中へは入れず、外の狭いテラスで紅茶とクッキーを急いで口の中へ放り込む。前日はガイドによる装備品のチェックがあり、荷物は必要最小限のものしか許可されなかった。しかし、カメラだけはネガ用とポジ用の2台の携行を特別に許されていたので、急いで東方のモンテ・ローザからブライトホルンまでを撮影する。

早くも上空が怪しくなる。10分少々休憩で出発。再び難所の一つである垂直の壁を攀じ登る。ようやく、いわゆる「肩」といわれる所に到達する。ホッとする間もなく“Crampon!”というGuntaさんの声。「えっ！こんなところでアイゼンを着けるの?」と、つい日本語で聞き質すも、もちろん答えはない。しばらくすると、“Ready?”とGuntaさんの声が飛んでくる。今まで、こんな急傾斜のしかも狭い所でアイゼンを着けたことがない私は、体の確保をしながら装着に手間取り、“Just a moment!”の連発。なんとか装着し終えて、雪と氷の混じった岩壁を攀じ登る。

いよいよ最難関の地点、標高差約100mの壁にさしかかる。ここには太いフィックス・ロープが8本あり、これを攀じ登らねばならない。日頃のトレーニングの成果が問われる箇所である。

余談だが、その当時は毎日の腕立て伏せに加えて、帰宅途中の地下鉄終着駅で他の乗客がみな降りてから吊革にぶら下がって懸垂をやっていた。ときには、この折り返し車両に乗り込んでくる若い乗客に見られてニヤリとされるが、そんなことを気にしてはおられない。腕の力を強くしなければマッターホルンには登れないのだ。

さて、7本目まではなんとかして攀じ登ったが、あと1本というところで両腕がパンパンに張ってしまい、どうしても体が持ち上がらない。足下を見ると切り立った岩壁の約1,000m下は

氷河の頭である。Guntaさんがビレーしてくれてはいるものの、懸垂ロープから手が離れば、私はもちろんのこと、タイミングが悪いとガイドも巻込んで氷河に音もなく消えて行くかもしれない。そんな恐怖感に襲われながらも、ガイドに助けられて必死の思いでこれをクリアする。

さて、いよいよ頂上直下の北壁の急傾斜(約60度)の氷雪の登りになる。氷雪といっても、ほとんどが石ころのような氷塊で、アイゼンは効かない。アンザイレンしたガイドとの間隔がぐっと狭くなる。私が滑落したときのショックを小さくするためであろう。ガイドはどんどん進もうとするが、私は氷雪面に両手をつけておっかなびっくりのへっぴり腰である。ときどき、先行者の蹴散らす氷塊がヘルメットに当たり、甲高い音が静かなアルプスの谷間にこだます。ときには腕や肩に当たり、「痛い!」と声を発すると“Nothing?”とGuntaさんが心配してくれるので、“Thank you, no problem.”と私。

しかし、気がつくとも両手の指先が少し白くなっており感覚がない。しまった!凍傷が始まっている。それまで攀じ登るのに必死で、スタート直後に外した手袋を途中で着けることなくザックの中へ入れたままである。指が思うように動かないので、ガイドにザックから手袋を出してもらいこれを着けようとするも、両手とも指先の感覚が麻痺しておりなかなかうまくいかない。足場も悪くモタモタしていると、すぐ、“Ready?”

とせかされる。急斜面をジグザグに這うように登っていくと、あと10分、さらにあと5分、とGuntaさんが励ましてくれる。最後の短いナイフリッジを登り切り、ついに頂上に立つ。午前9時9分。標準時間5時間のところ、



頂上にて

私たちは4時間25分で登ったことになる。このときには、すでに風まじりの雪が降りだして眺望は効かない。360度のパノラマ写真は諦めて、Guntaさんに登頂記念写真を撮ってもらおう。彼と一緒に撮りたくても誰も上がって来ないので、喉を少し潤し、リンゴを半分かじっただけでやむなくすぐ下山にかかる。

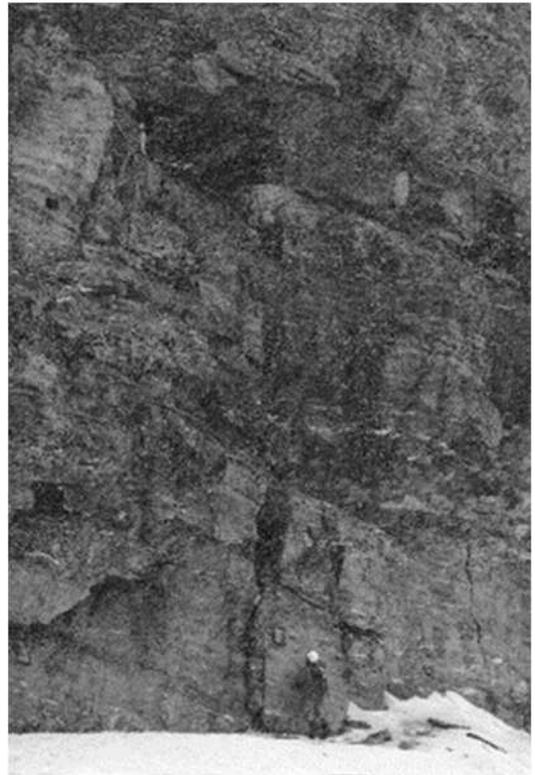
下山のトップは私に代わる。“This weather is summer-storm. Hurry up!” とGuntaさん。猛スピードで下山。といっても傾斜度60度の氷雪である。しかも、登ってきたときのトレースは新雪に消されてよく分からない。“Left!”、“Right!”そして“Straight!”と、まるでボクシング・ジムでの掛け声が上から飛んでくる。その声に従って “Yes!”とか“Ok!”と私。しかし、元気な声とは裏腹に、ついに足を滑らせて、あわや北壁を転げ落ちしようとしたとき、腰と太ももにハーネスの大きなショックを感じ体が止まった。頭は谷側、脚は山側、顔は氷塊の上に。またしても“Nothing?”と、心配そうにGuntaさん、“Thank you, no problem.”と私。命がひとつ助かった。

やがて、フィックス・ロープの所へ急ぐため、今度はガイドとアンザイレンしたザイルで懸垂下降だ。私がワンピッチ降りてザイルを太いピンに絡ませてビレー役をする。といっても、ガイドはほとんど自力でスイスイとエレベーターのように降りてくる。さすがプロだ、と感心していると、彼はすぐビレー体勢にはいり、“Don’t stop! Go down.”とくる。これを何度か繰り返して難所を切り抜ける。

山岳映画で見るとなにかいい懸垂下降などできるはずもない私は、宙ぶりの体を岩角にぶつけることおびただしく、肘や膝・脛は擦り傷だらけである。登りにアイゼンを装着したところで、いったんそれを外すも、積雪で頻繁にスリップするため、再度アイゼンを装着する。しかし、今度はアイゼンを岩角に引っ掛けて転ぶこと2回。その都度“Nothing?” “Thank you, no problem.”を繰り返す。

やがて、ソルベイ小屋へ。小休止を期待していた私は見事に裏切られる。“Don’t stop! Go down!”とガイドの非情な声。頂上で半分だけかじったリンゴが脳裏に浮かぶ。

その後も懸垂下降を何度も繰り返し、やっとヘルンリ小屋が間近に見えるところで最後の



最後の懸垂下降で氷河の頭へ着地

懸垂下降にかかろうとしたとき、小屋の裏の小高いピークで横叩きの雪にかき消されそうに立っている赤いアノラック姿が見える。よく見ると、なんと妻がカメラをこちらに向けているではないか！実は登頂前夜、最悪の事態を想定していた私は、待機者用の部屋（登頂者は朝が早いのでこれとは別室）で、妻に私のパスポート他貴重品を手渡していた。これが妻との今生の別れになるかもしれない、と真剣に考えていたのだ。それにしても、登攀出発からの長時間をよくぞ辛抱強く待っていてくれたものだ、と目頭が熱くなる。

慎重にワンピッチを下降し、氷河の頭に着地する。ガイドのGuntaさんは、私がビレーするまでもなくスルスルと下降し、着地したかと思うとすぐにザイルを裏に見事にリング状にまとめてザックに手早く収める。そして、“Mr. Sugiura, you are a Matterhorn-climber. Congratulation!” “Thank you very much! Mr. Gunta.” “You are welcome.”と再度の固い握手。Guntaさんは素早く小屋へ消えて行く。私は妻のところへ駆け寄ろうとするも、全身が

痛くてロボットのようにドスン、ドスンとしか歩けない。やっと妻に近寄り、握手、ハグ。待機の労をねぎらい礼を言って小屋へ入った。

ドアから一步中へ入ると、広い食堂や管理人室のあちこちから一斉に拍手がわきあがった。

“Congratulation!” 先に小屋へ入ったGuntaさんが皆に知らせてくれたのだろう。“Thank you very much!” と言って頭を下げ、みんなに礼を言う。時計を見ると午後1時25分。なんと3時間55分で下ってしまったのだ。標準時間は登りと同じ5時間だ。往復10時間のところ、われわれは8時間31分でやってのけたのだ。すごい！のひとこと。

Guntaさんにコーヒーをサービスし、私はザックからポットを出して、残りの紅茶を一気に飲み干す。半分かじりのリンゴが実にうまい。やがて、Guntaさんがマッターホルン登頂証明書にサインをして、登山者の欄は自分でサインするようにと私に手渡してくれる。震える手でゆっくりと署名する。再び“Congratulation！”

”と握手。それにしても、国家ライセンスを持つGuntaさんのプロ意識の高さと責任感の強さ、大いなる自信とプライドの高さは見上げたものだ。彼なくしては私の登頂は絶対になかった。

積雪が深くないうちに、ロープウェイのシュヴァルツゼー駅へ急ぐ。全身の痛みとは裏腹に、心は軽く爽快だ。

*

今回の登山の成果は、第一に満58歳でヨーロッパ・アルプス最難関の高峰マッターホルンの登頂に成功したことである。これは劔岳の「カニの縦てばい」を緊張の連続で8時間半の登攀と下降をしたことになる。これは残された私の人生に大きな自信を与えてくれた。第二は、団体登山ツアーによらず、計画の始めからAir-mailやE-mailを利用して、現地の登山エージェンシーにホテルとガイドを予約してもらい海外登山を完結させたことだ。何事も未経験の世界にチャレンジすることは実に楽しいものだ。

委員会報告

【自然保護委員会】

猿投のドラゴンボール

2022年2月22日に自然保護の委員3人で「猿投の森を楽しもう」の下見に行ってきました。

ドラゴンボールを見たのは、17年前が初めてでした。猿投の仲間たちで沢を詰めていた時、ふと、上を見て発見しました。不思議な岩があるなど話をして、目的の沢筋を歩きながらもあの岩は「ドラゴンボール」にしようとなを付けました。それから2年ぐらいあとその話をしたら興味を持った樹木医の松原さんが是非にこのことで案内して、その2回きりしか見ていません。

それから15年、ドラゴンボールは私を待って居てくれるのでしょうか。ゲートから、徒歩30分、大きなスギの木から沢筋を15分ほど、登り、その後土砂崩れの後を降りて下の沢につきます。例のドラゴンボールが鎮座しているあたりです。しかし、沢筋に降りて、上を見上げてもその岩は見当たらず、少し探してみたら、なんと沢の中にそのドラゴンボールらしき岩が、頭から、落ちています。

何も変わらないと思っていた猿投の森の変



猿投のドラゴンボール

化です。一体、いつ落ちたのかそれを誰も見てはいない。3トンぐらいの岩があつた稜線から落下したのです。轟音がして土砂をまき散らしながら、松の木をなぎ倒して、ドラゴンボールは沢に落ちたようでした。しかも誰も知らぬ間

にそれは起きていたのです。落ちた岩の上にはコケや、草などが生えていました。

その場所にたたずむといろんなことが頭をよぎります。あー、せめて、はじめ見たとき、写真に撮っておけばよかったと何度も思いま

した。名も知らぬ小さな鳥が3人を慰めるように木の間に飛び回っています。

3月中～下旬の「猿投の森を楽しもう」では是非皆さんにご覧いただきたいと思っています。

この「猿投の森を楽しむ」は、自然保護委員会が2022年2月より始めた活動です。自然観察

会とは、少し違った目線で、森の案内を考えています。興味のある方は井藤まで申し込んでください。トサミズキやミツバツツジの咲き具合を見て実施日を決めたいと思っています。小人数で森を楽しみたいと思います。

自然保護委員長 井藤恵美子

【山行委員会】

2021年度 支部山行実施状況

月	日程	山域	山名等	参加人数	リーダー名
4月	3日～4日	天子山地	毛無山	8名	稲葉真英
	10日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	16日	鈴鹿山系	イブネ・クラシ	7名	鈴木慎吾
5月	7日	鈴鹿山系	竜ヶ岳	中止	鈴木慎吾
	8日	鈴鹿山系	黒尾山・銚子ヶ口	中止	石田伸郎
	8日～9日	御坂山地・天子山地	パノラマ台・竜ヶ岳・雨ヶ岳	中止	稲葉真英
	8日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	14日	室生山地	兜岳・鎧岳	中止	石井 仁
	15日	高島トレイル	百里ヶ岳	中止	吉田俊紀
	23日	鈴鹿山系	赤坂谷～釈迦ヶ岳	中止	渡邊泰夫
6月	1日	敦賀	鉢伏山	中止	鈴木慎吾
	2日	布引山地	経ヶ峰	中止	石井 仁
	12日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	19日	中央アルプス	烏帽子岳	中止	石田伸郎
	26日～27日	奥秩父前衛	茅ヶ岳	中止	稲葉真英
	27日	鈴鹿山系	元越谷遡行	中止	渡邊泰夫
	29日	北八ヶ岳	蓼科山	中止	鈴木慎吾
7月	3日～4日	静岡	富士山	中止	伊藤祐幸
	7日	中央アルプス	三ノ沢岳	中止	杉村正博
	10日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	16日～17日	静岡	富士山	中止	石田 誠
	20日	奥飛騨	沢上谷	6名	鈴木慎吾
	23日	浜松北	秋葉山・竜頭山・井戸口山	中止	石井 仁
	25日	鈴鹿山系	赤坂谷～釈迦ヶ岳	6名	渡邊泰夫
	31日	中央アルプス	経ヶ岳	6名	石田伸郎
8月	4日～5日	北アルプス	白馬岳	8名	鈴木慎吾
	8日～9日	安部奥	大光山・バラの段・八紘嶺	中止	石井 仁
	12日～14日	北アルプス	立山三山・奥大日岳	中止	稲葉真英
	14日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	29日	鈴鹿山系	元越谷遡行	中止	渡邊泰夫

9月	4日～5日	伊那山地	陣馬形山・風越山	中止	稲葉真英
	11日～12日	木曾水系	岩倉川遡行	中止	渡邊泰夫
	11日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	17日	室生山地	兜岳・鎧岳	中止	石井 仁
	24日	敦賀	鉢伏山	中止	鈴木慎吾
	26日	中央アルプス	三ノ沢岳	中止	杉村正博
10月	9日	各務原	伊木の岩場	4名	伊藤祐幸
	17日	高島トレイル	大見影山	中止	吉田俊紀
	23日	飛騨	島脇谷山・船山	中止	伊藤祐幸
	30日	鈴鹿山系	天狗堂・サンヤリ・滝谷山	5名	大矢英詞
	30日	鈴鹿山系	雨乞岳	5名	鬼頭則俊
	30日～31日	御坂山地・天子山地	パノラマ台・竜ヶ岳	6名	稲葉真英
11月	3日	鈴鹿山系	御在所本谷	6名	山田明美
	7日～8日	妙義山系	荒船山・妙義山	中止	石井 仁
	12日	瑞浪	屏風山	7名	鈴木慎吾
	13日	各務原	伊木の岩場	4名	伊藤祐幸
	23日	南勢	局ヶ頂	9名	伊藤祐幸
	28日	鈴鹿山系	水晶岳・ハライド	4名	石田伸郎
12月	12日	松阪	伊勢山上	5名	石田伸郎
	26日	鈴鹿山系	御在所藤内沢	6名	山田明美
1月	8日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	15日	南信州	富士見台	6名	稲葉真英
	16日	余呉トレイル	椿井嶺	8名	伊藤祐幸
	21日	高島トレイル	赤坂山	中止	鈴木慎吾
	23日	南伊勢	姫越山	中止	石田伸郎
2月	11日～12日	北アルプス	上高地	中止	稲葉真英
	12日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	18日	鈴鹿山系	藤原岳(天狗岩)	中止	鈴木慎吾
	19日	板取川上流	ゴンニャク	中止	吉田俊紀
3月	5日～6日	美ヶ原	王ヶ頭	中止	稲葉真英
	6日	九頭竜川上流	穴岩谷山	中止	伊藤祐幸
	12日	各務原	伊木の岩場	中止	伊藤祐幸
	31日	鈴鹿山系	銚子谷	中止	山田明美
				総参加者数	116名 (143名)
				平均参加者数	6.1名 (5.1名)
				実施率	29.7% (45.2%)

(昨年度)

※コロナウイルス感染拡大のため、半数以上の山行が中止となった。

山行委員会委員長 鈴木慎吾

【東海学生山岳連盟】

猿投の森を歩く

2月2日、自然保護委員会の「猿投の森を楽しもう」に学生連盟から2名参加しました。好天に恵まれ、とても気持ちのいい散策でした。自然を楽しみながら山の中をゆっくり歩くと、普段の学生同士の山行ではなかなかできない体験をさせていただきました。自然保護委員の方々の活動について知る良い機会になりました。

藤原岳

日帰りで藤原岳に登ってきました。駅に着いた時には雨が少し降り始めましたが、登り始めるとほぼ止んでくれました。4合目辺りからは雪が出始めました。

小屋の辺りまで登ってくると、雪と風で寒く、小屋の中では多くの人が温かいものを作っていました。休憩もそこそこに山頂まで行くと、足元も空も真っ白でした。眺望こそ楽しめなかったものの、自分自身久しぶりの雪山歩きを楽



藤原岳冬山道

しむことができました。

今後の活動

まもなく4月に入り、新歓シーズンとなります。幅広く学生を受け入れられるよう、新歓山行やその他イベントの企画・準備を進めていきたいと思います。

東海学生山岳連盟 委員長 丸岡春香

会員の広場

同好会紹介コーナー

スケッチクラブ

村中征也

昨年11月のスケッチクラブ総会での協議を受け、1年の活動計画を練って迎えた新年でしたが、ウィルス禍は一向に衰えず、不自由な生活は3年目に入りました。

《2022年の活動計画》

3月7日

岐阜市梅林公園～金華山一帯

4月13日

豊田市ガーデンミュージアム花遊庭

6月3日

桑名市六華苑・旧諸戸清六邸

8月31日

新城市湯谷温泉・板敷川(鳳来峡)

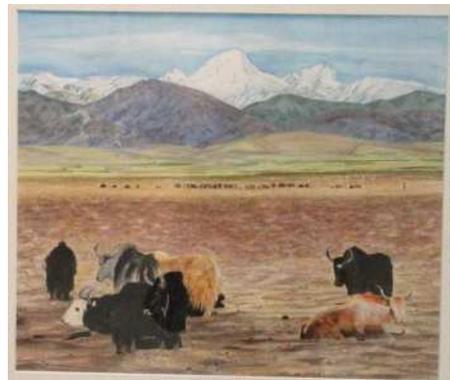
10月25日～26日

奈良県明日香村・飛鳥時代の風物

11月上旬～中旬

第8回作品展 名古屋市・市政資料館

3県への「まん延防止等重点措置」は、3月まで延期され、3月の計画は中止を余儀なくされました。ウィルス禍の状況を見ながら、自宅での研鑽を積んでおりますが、災禍の一刻も早い収束を願っております。



『カキュ・カンリとヤクの群』 野村 志保子

スケッチクラブも、コロナウィルス禍で活動を阻害され、早くも2年になります。そんな中で、工夫を重ね活動して来ました。

今期も盛り沢山の計画を立てました。11月予定の「第8回作品展」に備えての活動です。昨年11月の「第7回作品展」のスナップと主な作品を紹介します。

今年も、支部の皆様のご来観を、全員でお待ちしております。

代表：石井 仁

事務局：村中征也・岩田智与子

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画（令和4年年7月～9月分）

- <夏山>7月2日(土) ☆☆
山域：長野・御嶽山系 山名：御嶽山
リーダー：倉橋智司
- <夏山>7月16日(土) 17日(日) ☆☆
山域：中国山地東部 山名：朝来山 氷ノ山
リーダー：村瀬恭平
- <夏山>7月23日(土) 24日(日) ☆☆
山域：稲武・木曾恵那 山名：恵那山
リーダー：田中 進
-
- <夏山>8月6日(土) ～8日(月) ☆☆
山域：菅平高原 山名：四阿山、根子岳
リーダー：榊 將美
- <夏山>8月7日(日) 8日(月) ☆☆
山域：中央アルプス 山名：木曾駒ヶ岳
リーダー：磯部 隆
- <夏山>8月19日(金) ～21日(日) ☆☆☆
山域：南アルプス 山名：甲斐駒ヶ岳
リーダー：高松 信治 (事前ミーティング有)
- <夏山>8月26日(金) ～27日(土) ☆☆
山域：両白山地 山名：白山
リーダー：倉橋智司

- 9月10日(土) ☆☆
山域：鈴鹿山脈 山名：藤原岳
リーダー：磯部 隆
- <夏山>9月11日(日) ～12日(月) ☆☆
山域：御嶽山系 山名：御嶽山の摩利支天
リーダー：近藤政仁
- <夏山>9月18日(日) 19日(月) ☆☆
山域：北ア南部 山名：乗鞍岳&五色ヶ原
リーダー：金谷正起
- 9月23日(金・祝) ☆
(2022年4月以降新入会員対象)
山域：三河高原 山名：物見山～猿投山
リーダー：金谷正起

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。

・締切日 原則山行日 1ヶ月前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)

・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。

・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング 開催内容のお知らせ

- 第50回「朝明ミーティング」** 朝明茶屋にて
日時：4月9日・10日(土・日) 延期
10月8日(土)・9日(日) 開催予定
1日目：分散登山(鈴鹿連峰) 夕食バーベキュー キャンプファイアー
2日目：実技講習開催
- 第51回「2022夏山への誘い」** 支部ルームにて
日時：4月12日(火) 19:00～21:00
山行リーダーが夏山9コースを説明、参加者は当日募集受付します。
- 第52回「鈴鹿に於ける山岳遭難の実態と対応」**
日時：6月14日(火) 支部ルーム
講師：四日市西警察署巡查部長 小古真也 氏
- 支部友会員数** 令和4年3月末現在/52名

リーダー連絡先

- 尾上 昇 FAX: 052-832-3878
メール: onoe@onoe.co.jp
- 金谷正起 携帯: 090-9931-3600
メール: kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp
- 榊 將美 携帯 090-7237-4410
メール: m.sakaki@minds-consulting.jp
- 村瀬恭平 携帯: 090-4186-9876
メール: hoshizakari@docomo.ne.jp
- 田中 進 携帯: 090-9191-8666
メール: t-susumu@peace.ocn.ne.jp
- 今津英一朗 携帯 090-2616-7549
メール: imazu.eiitirou@maroon.plala.or.jp
- 磯部 隆 携帯: 090-9180-7245
メール: takass@yk.commufa.jp
- 高松信治 携帯: 090-3156-5268
メール: takama2nobu3@yk.commufa.jp
- 松本陽子 携帯: 090-7859-4031
メール: yo-kom@nifty.com
- 水野猛志 携帯: 090-5866-3781
メール: r34668@bma.biglobe.ne.jp
- 近藤政仁 携帯: 090-2183-8125
メール: vft55ud55@gmail.com
- 倉橋智司 携帯: 090-8673-7180
メール: ilyt6by8@qc.commufa.jp

会 務 報 告

【2021年12月常務委員会】

- 1. 支部長挨拶(高橋):** コロナが少し落ち着き、種々のイベントが始まりました。冬山フェスタも2000名程の参加があって盛況に終わり、新規入会者についても見込める成果があった。今後とも配慮の有る活動をお願いしたい。
- 2. 総務委員会(今津):** 11月申請分、入会者2名、退会者2名があった。会計からは未納者への請求を発送した。相談事項として、東海ユースの規約変更について服田氏より、管理口座について個人名義から任意団体口座の名義に変更する旨、説明があり常務委員会で承認された。連絡事項として60周年行事の参加者は、懇親会出席者80名、講演会は100名程の参加が予定される。60周年記念品の実費配布を計画。
- 3. 支部友委員会(金谷):** 11月山行は3件実施終了。12月・1月計画も現在の処、問題なく進めている。支部友ミーティングは2月15日「鈴鹿に於ける山岳遭難の実態と対応 - 登山届の出し方」を三重県警の小古氏により行う。冬山フェスタでの体験登山募集は25名の記名があり歩留まりは10名程と見込んでいる。若い人が多い様に感じた。
- 4. 山行委員会(欠席):** 今津氏より2022年リーダー会議は3月24日に行う旨報告された。
- 5. 亀の会(加藤):** 12月16日に忘年会をモリコロパーク屋外で27名、卒寿・米寿の会員3名の参加も戴いて実施した。
- 6. 猿投の森づくり委員会(和田):** 予定通り3密に配慮し屋外の活動を実施した。12月25日仕事納めと餅つきを行う。
- 7. 東海ユース(服田):** 会員動向として1名入会。定例山行は12月25日、猿投山を8名参加で行いその後、森づくりの会の納会に参加する。
- 8. 青年部(荒木):** 12月11日岐阜芥見権現にてアイゼントレーニングを実施した。1月小秀山合宿・2月八ヶ岳東面天狗尾根合宿を実施予定。1月9日は学生の新年会を計画。
- 9. 学生連盟(丸岡):** 秋の総会を12月9日に実施し役員交代がなされた。12月18・19日は冬山フェスタに4名参加し手伝いを行った。
- 10. 登山学校運営委員会(服田):** 11月山行は全て実施済。12月の初級の山行は天気が荒れる予報の為に中止になった。中級の山行は2Bで12月26日・猪臥山、上級の12月25・26日・

硫黄岳の小屋泊は予定通り。机上講習は12月11日「冬山の気象」は遭難対策委員会と合同開催で46名の参加で実施した。

- 11. 自然保護委員会(井藤):** 定例委員会中止の為、山桜フィールドの生態系写真が紹介された。
 - 12. ボランティア委員会(前田):** 定例会と懇親会を開催した。
 - 13. 東海山岳・支部報編集委員会(星):** 支部報発送は12月28日に行う。東海山岳12号は校正作業を進めている。
 - 14. 遭難対策委員会(山田):** 11月は委員会山行を実施した。遭対員のチェック表による判断確認、レベルの確認のため実施をした。
 - 15. 猿投山遭難捜索(山田):** 財布が見つかった為、再捜索。12月4・5日に最後の砂防ダム上の急峻な所を捜索した。ベスト・携帯電話を発見。引き続き捜索したが5日午後終了した。
 - 16. 写真展実行委員会(伏屋):** 初中級写真教室の開催を、撮影技量のアップと、写真展への参加促進を広める為に始める。審議事項として①支部機材の使用②アプリのインストール③講師の謝礼など検討をした。参加対象を支部員・支部友・森づくりの会・学生連盟に加盟している学生・東海支部傘下の団体までを対象にして承認された。
 - 17. 技術向上委員会(清水):** 2月26・27日、雪上訓練を石徹白の旧和田山牧場跡にて、「イグルー講習」を計画。講師は米山悟氏。
 - 18. 古道調査委員会(西山):** 調査予定は3ルートで、「伊勢神峠」は、古橋懐古館が10月に再開。見学と調査を計画。「八風峠」については、2月～3月に絶滅危惧種に指定されているシデコブシの開花に合わせて調査を予定。「大台ヶ原・尾鷲古道」は5月以降を予定。
 - 19. 最後に、高橋支部長より、山田トシ氏の壮行会を3月26日に行いたい旨提案された。**
出席：高橋、今津、和田、服田、丸岡、大月、千葉、前田、山田、井藤、西山、荒木、金谷、石田、伏屋、佐野
リモート参加：清水、星、片岡、加藤
- 【2022年1月常務委員会】**
日時：1月26日(水)19時～21時20分(ZOOMとの並行開催)
- 1. 支部長挨拶(高橋):** 1月16日60周年記事は多くの方が参加され式典を執り行われ

た。60山ラリーの表彰もできた。

東京本部で全国支部長懇談会があり東海支部の取り組みを紹介。ヒマラヤに向けた志、委員会が多く活発に活動していることなど。

2. 総務委員会（今津）：

・60周年記念事業、アンケート結果は好評だった。読売新聞に掲載された。

・2022年度総会は5/15を予定。2部制にして、委員会紹介などをしたい。

・ルームの使用はコロナ感染防止のため原則禁止とする。（愛知県のみまん延防止発出中）

3. 遭難対策委員会（山田）：60山ラリーの会計報告。

4. 支部長（高橋）：次年度計画について。SNSの強化。学生育成。将来のヒマラヤニストを育成。猿投の森と支部のコラボ。新組織の取り組み、豊かな発想にチャレンジ。

5. 支部友委員会（金谷）：体験登山を12月の冬山フェスタで募集した。2/6御在所の予定を延期。猿投山と御在所の体験希望者15名から支部に入会して欲しい。

支部友ミーティング2/15、【鈴鹿における山岳遭難事故と対応、登山届の出し方】（リモートで紹介）

6. 支部長（高橋）：各委員会のまん延防止期間の山行は愛知県内日帰りとする。個人山行は規制しない。指針を出すこと。

7. 山行委員会（鈴木慎）：まん延防止適用された時は、県内日帰り山行のみとする。支部山行は中止とする。新規リーダー、天澤氏と大西氏。

8. 亀の会（加藤）：マイクロバス、公共交通機関利用。まん延防止発出中の山行中止。

9. 東海 youth（服田）：12/25猿投山7名、午後は猿投の森づくりの餅つき参加。

10. 支部刊行物編集委員会（星）：支部報169号原稿締め切りは2月末。内容は60周年記念事業と60山ラリー他。

11. 東海学生連盟（丸岡）：各委員会で学生が手伝えることがあれば声をかけて欲しい。支部長より各委員会で学生育成のため協力をお願いしたいとのこと。昨年の総会は学生4人。

※支部長より、学生→青年部（支部員）の流れつくる取り組みを進める（予算措置する）

12. 登山学校委員会（服田）：同窓会山行の計画は学校山行で審議していたが今後増えていくので同窓会山行で審議していく。支部長より同窓会山行の統制をとる人が必要とのこと。

13. 自然保護委員会（井藤）：猿投の森の散策を

月に一回実施していく。第一回は2/2予定。参加希望者は井藤さんに連絡の事。モニタリング1000は今年度終了、来期もエントリーの予定。支部長より林学専攻の学生に活動参加してもらうことを提案される。

14. ボランティア委員会（前田）：ボランティア委員会の山行は大人数になるので少人数で個人山行として何度か実施している。

15. 遭難対策委員会（山田）：12/4～5猿投山の捜索延べ28名参加。危険な地域なので支部としては今後、継続した活動はしない。

16. 写真展実行委員会（伏屋）：写真教室、申込2名。スマホ撮影でもいいので参加者増をめざす。2023年2月に写真展開催予定。

17. 技術向上委員会（清水）：【イグルー講習会】コロナの関係で中止。来年計画予定。

18. 海外登山委員会（高橋）：カンチュンナップ登山の山田氏の壮行会3/21予定。

19. 森の音楽祭について（高橋）：音楽祭を実施か中止か検討する。

出席：今津、山田、奥山

リモート参加：高橋、佐野、金谷、鈴木慎、加藤、服田、荒木、丸岡、井藤、前田、伏屋、清水、星、千葉

【2022年2月常務委員会】休会

ル ー ム 日 誌

	12月	
	大会議室	/小会議室
1(水)	青年部	
2(木)	写真展実行委員会	
3(金)	古道塩の道	
5(日)	東海ユース	
6(月)	支部友委員会	
7(火)	県岳連	/TNCC
8(水)	山行委員会	
9(木)	自然保護委員会	
10(金)	全国支部懇談会	
13(月)	登山学校運営委員会	
14(火)	支部友ミーティング(中止)	
15(水)	東学連	
16(木)	”正副支部長会議 総務委員会”	/技術向上委員会
17(金)	60山ラリー	
20(月)	図書委員会・読図会	
21(火)	ボランティア委員会	
22(水)	常務委員会	
24(金)	支部山行打ち合わせ	
25(土)	支部報発送日	

SINCE 1975
mont-bell
FUNCTION IS BEAUTY

最新情報はこちらから
www.montbell.jp



0088-22-0031 06-6536-5740

株式会社 **モンベル** 【お問い合わせ】モンベル・カスタマー・サービス

法務相談は行政書士にお任せください!

相続

会計

許認可

1時間無料相談

あなたの不安を解決に導きます

遺言書、遺産分割協議書、
法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など



西山行政書士事務所 ☎052-961-6506

名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東桜ビル1004
www.nygs-office.com

久屋大通駅
徒歩1分

『東海支部報』では、
広告を募集しております

表4(裏表紙)掲載

※掲載のご希望・お問合せは

jactokai107@gmail.com まで

***** OMC *****

住いのコンサルタント

(有) 富士見企画

〒460-0014
名古屋市中区富士見町8番8号

オフィスに関する悩み事、丸天産業が全て解決します。

ファシリティマネジメントによるオフィス構築や
デザイン、インテリアやセキュリティなど
オフィスのすべてが揃っています。

オフィスのお困りごとを丸がかえでお応えいたします。



郵送無料 Honesty

コンサルティング事例集

オフィスに関するお悩み事の解決事例が載っています。
お申込みは下記までお電話ください。

株式会社 丸天産業

本社 〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5丁目10-34
TEL: 052-241-3686 FAX: 052-241-0457

企画・デザイン・印刷



株式会社 浅井隆文社

〒461-0044 名古屋市中区東区矢田東1番22号
TEL (052)719-0677 FAX (052)719-0678
E-mail: info@asai-rbs.co.jp